

『持続的な向上心の基本』 ～ 『視野狭窄にならず、時代を読む』 ～

2023 年 9 月 6 日 神戸での【『モリユリ・ミュージック・ミニストリーズ』の森祐理氏との『ラジオ関西』番組『モリユリのこころのメロディ』】の収録に赴いた時の『キリンとの写真』が 9 月 7 日に 横山郁子先生（神戸薬科大学地域連携サテライトセンター）から送られて来た（添付）。大いに感動した。

9 月 7 日 筆者は新渡戸稲造記念センター長を仰せつかっている新渡戸記念中野総合病院での倫理委員会に出席した。提案者の看護師さん達の真摯な質疑応答の姿勢には、大変勉強になった。まさに『持続的な向上心の基本』であろう！

その後、帰宅して、Zoom『南原繁研究会（第 230 回）』に参加した。『南原繁の政治哲学』は、筆者にとっては、『教育の原点』である。筆者は、2004 年にスタートした南原繁研究会【初代代表、鴨下重彦 先生（1934 年-2011 年、東京大学名誉教授、国立国際医療センター名誉総長）、第 2 代代表、加藤 節 先生（成蹊大学名誉教授）】の 3 代目の代表を、2019 年 南原繁(1889-1974)生誕 130 周年を祝い、仰せつかった。『継続は力なり』を実感する日々である。

南原繁は、内村鑑三(1861-1930)と新渡戸稲造(1862-1933)から大きな影響を受けた。南原繁は新渡戸稲造校長時代の一高で学び、影響を受けた。一高時代、南原繁は『聖書之研究』を読み始め、東大法学部に入学後、内村鑑三の聖書講義に出席するようになった。『南原繁→新渡戸稲造→内村鑑三』である。

筆者は、南原繁が東大総長時代の法学部と医学部の学生であった二人の恩師から、南原繁の風貌、人となりを直接うかがうことが出来た。南原繁は、『高度な専門知識と幅広い教養』を兼ね備え『視野狭窄にならず、複眼の思考を持ち、教養を深め、時代を読む 具眼の士』と、教わったものである。『時代を動かすリーダーの清々しい胆力』としての『人間の知恵と洞察とともに、自由にして勇気ある行動』（南原繁著の『新渡戸稲造先生』より）という文章が思い出される今日この頃である。『もしかすると、この時のためであるかもしれない』（エステル記 4 章 14 節）の『人生邂逅の原点』の実体験でもある。

